

平成22年 3 月期第 2 四半期決算 説明資料

株式会社 力ネ力

平成21年10月30日(金)

目次

・ 業績概要	P.	3
・ 主要指標	P.	4
・ 売上高	P.	5
・ 営業利益	P.	6
・ 原燃料価格動向と営業利益への影響	P.	7
・ 為替変動の影響	P.	8
・ 海外売上高	P.	9
・ 営業外損益・特別損益	P.	10
・ 主要子会社の状況	P.	11
・ セグメントの状況	P.	12
・ トピックス	P.	16

業績概要

(単位：億円)

	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	前年比		前回予想 (4-9月)
			増減額	伸び率	
売上高	2,489	2,018	△471	△18.9%	2,000
営業利益	102	80	△21	△21.1%	65
経常利益	102	72	△30	△29.3%	60
純利益	50	40	△10	△19.5%	33

主要指標

	(20/9)	(21/3)	(21/9)
・ 売上高営業利益率	4.1% ⇒	1.7% ⇒	4.0%
・ 売上高経常利益率	4.1% ⇒	1.3% ⇒	3.6%
・ 売上高純利益率	2.0% ⇒	▲0.4% ⇒	2.0%
・ 1株当り純利益	14.56円 ⇒	▲5.45円 ⇒	11.75円
・ ROE	3.8% ⇒	▲0.7% ⇒	3.3%
・ ROA	4.5% ⇒	1.3% ⇒	3.4%
・ 総資産	4,619億円 ⇒	4,185億円 ⇒	4,223億円
・ 純資産	2,674億円 ⇒	2,495億円 ⇒	2,543億円
・ 自己資本	2,610億円 ⇒	2,433億円 ⇒	2,472億円
・ 自己資本比率	56.5% ⇒	58.1% ⇒	58.5%
・ 1株当り純資産	768.04円 ⇒	717.15円 ⇒	728.70円
・ 有利子負債	606億円 ⇒	722億円 ⇒	639億円
・ D/Eレシオ	0.23 ⇒	0.30 ⇒	0.26

売上高

(単位：億円)

	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
<セグメント別>			
化成品	508	385	△123
機能性樹脂	418	312	△107
発泡樹脂製品	380	265	△115
食品	616	591	△24
ライフサイエンス	206	179	△27
エレクトロニクス	225	178	△46
合成繊維、その他	136	107	△29
計	2,489	2,018	△471

<単独・子会社別>			
単独	1,529	1,186	△344
国内子会社	1,293	1,172	△121
海外子会社	533	354	△178
消去	△865	△694	+172
計	2,489	2,018	△471

営業利益

(単位：億円)

	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
<セグメント別>			
化成品	18	5	△13
機能性樹脂	37	48	+11
発泡樹脂製品	△1	24	+25
食品	9	42	+33
ライフサイエンス	34	19	△14
エレクトロニクス	20	△35	△55
合成繊維、その他	17	7	△11
消去・全社費用	△32	△30	+2
計	102	80	△21

<単独・子会社別>			
単独	62	19	△44
国内子会社	21	46	+25
海外子会社	30	26	△4
消去	△12	△11	+1
計	102	80	△21

原料価格動向と営業利益への影響

<石化原料>	アップ率
国産ナフサ	△52%
エチレン	△50%
スチレンモノマー	△43%
MMA	△37%
ブタジエン	△51%
アクリロニトリル	△46%

<食品原料>	アップ率
大豆油	△39%
菜種油	△44%
パーム油	△41%
魚油	10%

セグメント	影響額（億円）
化成品	+96
機能性樹脂	+56
発泡樹脂製品	+17
合成繊維、その他	+9
（石化計）	（+179）
（食品計）	（+28）
計	+207

為替変動の影響

【期中平均レート】

	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	騰落率
U S \$	106.12	95.53	+10.0%
E U R	162.80	133.21	+18.2%

☆単独：為替変動1円当たりの営業利益影響額＝4.0億円／年
(US\$＝3.3億円・EUR＝0.7億円)

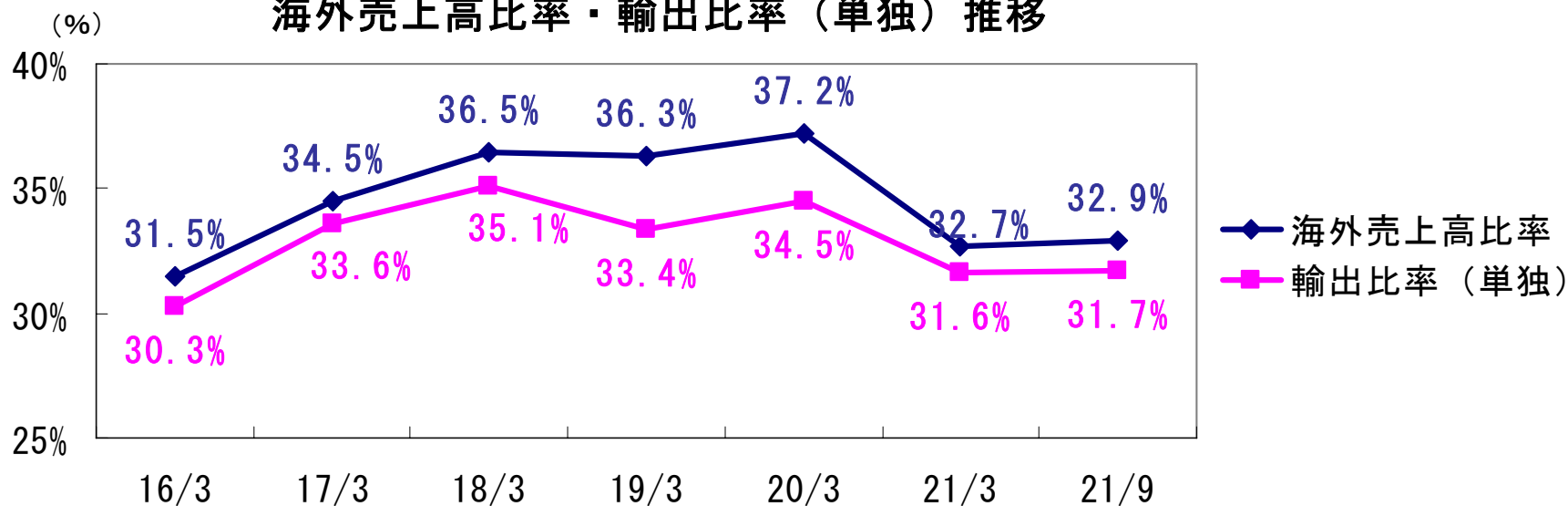
【セグメント別への影響額】

(単位：億円)

	売上高		営業利益	
	対前年 増減額	内 為替の影響	対前年 増減額	内 為替の影響
化成品	△123	△15	△13	△5
機能性樹脂	△107	△45	+11	△15
発泡樹脂製品	△115	△4	+25	△1
食品	△24	—	+33	+0
ライフサイエンス	△27	△10	△14	△1
エレクトロニクス	△46	△11	△55	△3
合成繊維、その他	△29	△10	△11	△7
消去・全社費用	—	—	+2	—
計	△471	△96	△21	△31

海外売上高

海外売上高比率・輸出比率（単独）推移



（単位：億円）

＜単独売上高＞	H20/9	H21/9	増減額	伸び率
国内	1,003	810	△193	△19.2%
輸出	526	376	△151	△28.6%
（輸出比率）	（34.4%）	（31.7%）		

＜連結売上高＞	H20/9	H21/9	増減額	伸び率
国内	1,574	1,354	△220	△14.0%
海外	915	664	△251	△27.4%
（海外比率）	（36.8%）	（32.9%）		

地域別海外売上高 （単位：億円）

地域	H20/9	H21/9	増減額	伸び率
アジア	337	303	△34	△10.1%
北米	185	117	△68	△36.7%
欧州	300	174	△126	△41.9%
その他	93	70	△23	△24.9%

営業外損益・特別損益

○営業外損益

(単位：億円)

	前期(4-9月)	当期(4-9月)	増減額
収 益	27	13	△14
費 用	△26	△21	+5
(収 支)	1	△8	△9

[内 訳]

(単位：億円)

	前期(4-9月)	当期(4-9月)	増減額
金融収支	2	3	+0
その他	△2	△11	△9
(内 固定資産除却)	△7	△6	+1
(内 為替差損益)	7	△3	△10
(その他)	△1	△1	+0

○特別損益

(単位：億円)

	前期(4-9月)	当期(4-9月)	増減額
特 別 損 益	△18	-	+18
減損損失	△5	-	+5
投資有価証券評価損	△14	-	+14

主要子会社の状況

(単位：億円)

	売上高		営業利益	
	金額	前年比	金額	前年比
国内（37社）	1,172	△9.3%	46	+118.8%
海外（15社）	354	△33.5%	26	△14.5%

○国内子会社

(単位：億円)

		前期(4-9月)	当期(4-9月)	前年比
カネカメディックス	売上高	79	87	+10.5%
	営業利益	10	11	+9.1%
栃木カネカ	売上高	19	11	△43.0%
	営業利益	2	1	△61.7%
食品子会社	売上高	683	646	△5.3%
	営業利益	3	17	+488.1%

○海外子会社

(単位：億円)

		前期(4-9月)	当期(4-9月)	前年比
カネカベルギー	売上高	241	139	△42.3%
	営業利益	32	13	△58.9%
カネカテキサス	売上高	148	101	△31.6%
	営業利益	△6	7	—
マレーシア4社	売上高	64	50	△21.9%
	営業利益	3	7	+170.2%

セグメントの状況

○化成成品事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	508	385	△123
営業利益	18	5	△13

塩化ビニール樹脂は、中国をはじめとする海外市場の需要が回復基調にある一方、国内需要は低迷し、原料価格上昇に伴う販売価格への転嫁に努力したものの減収減益。塩ビ系特殊樹脂は、国内需要が低調に推移。か性ソーダについては、海外市況が急落し、国内需要も低迷。セグメント全体では減収減益。

○機能性樹脂事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	418	312	△107
営業利益	37	48	+11

モディファイヤーは、アジア市場、欧米市場ともに本格的な回復に至らず、日本市場も低迷し減収となりましたが、原燃料価格の変動に対応した販売価格の修正やコストダウン等による収益体質強化策の徹底により増益。変成シリコーンポリマーは、米国市場が堅調に推移したものの日本・欧州での建築関連需要の不振が響き、減収減益。セグメント全体では減収増益。

セグメントの状況

○発泡樹脂製品事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	380	265	+115
営業利益	△1	24	+25

発泡樹脂製品は、国内市場の低迷による発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードの販売数量の減少に加え、ポリスチレンペーパー等の事業撤退の影響も重なり、減収となりましたが、徹底した製造コストダウンと経費削減に努めました。セグメント全体では減収増益で採算化。

○食品事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	616	591	△24
営業利益	9	42	+33

食品は、消費者の節約・低価格志向により、需要の伸び悩むとともに低価格化競争が激化し、販売数量・価格ともに下落しましたが、コストダウンと新製品拡販による収益の回復に注力し、減収増益。

セグメントの状況

○ライフサイエンス事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	206	179	△27
営業利益	34	19	△14

医療機器はインターベンション事業の販売が順調に拡大し、増収増益。医薬バルク・中間体は、販売数量が前年同四半期を下回り、減収減益。機能性食品素材は、高機能品の販売数量が増加傾向にあるものの、既存製品の競争激化に伴う販売価格下落と販売数量の減少により、減収減益。セグメント全体では減収減益。

○エレクトロニクス事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	225	178	△46
営業利益	20	△35	△55

超耐熱性ポリイミドフィルム・液晶関連製品は、エレクトロニクス製品の市場回復に伴ない販売数量は伸びてきておりますが、液晶関連製品を除き前年同四半期の水準には至らず、減収減益。太陽電池は、欧州での需要低迷により販売数量が前年同四半期を下回り、競争の激化に伴う価格下落も響き、減収減益。セグメント全体では減収減益で採算割れ。

セグメントの状況

○合成繊維、その他事業

(単位：億円)	前期 (4-9月)	当期 (4-9月)	増減額
売上高	136	107	△29
営業利益	17	7	△11

合成繊維は、世界的な景気低迷の影響から海外各市場の需要が低調に推移し、円高の影響も加わって減収減益。また、その他事業も、エンジニアリング子会社の解散決定に伴ない減収。セグメント全体でも減収減益。

トピックス

- 経皮吸収型医薬品の研究開発と製造の新会社を設立
— 合併会社の売上高として5年後約50億円を目指す 2009.10.02
- カネカベルギーに太陽電池研究部門を設置
— 欧州の研究機関（IMEC）と研究委託契約締結 2009.09.15
- 微生物由来の天然界面活性剤（バイオサーファクタント）の事業を本格展開
— 第一弾としてサーファクチンナトリウムの販売を開始 2009.08.31
- 業界初、生クリームの自然な風味を持つ新たなクリームを開発
— 洋菓子用ホイップクリームと調理加工用クリームの本格販売を開始 2009.08.27
- 新たに太陽電池関連部材の事業を積極展開
— EVAシート製造のサンビックとの提携を強化 2009.08.20
- カスタムセンサ事業の会社分割（新設分割）及びアオイ電子株式会社との合併契約締結
2009.08.10
- 薄膜系太陽電池、国内住宅市場向けの事業展開を強化
— 建材一体型など特長のあるタイプを積極的に展開 2009.07.17
- 間葉系幹細胞の分離デバイスなど再生医療分野での事業を積極展開 2009.06.30
— 間葉系幹細胞の抽出から培養まで、一貫した治療システムの確立を目指す
- 変成シリコーンポリマーの米国新工場が計画通りに竣工稼働
— 日米欧の3拠点体制が確立 2009.05.29
- 還元型コエンザイムQ10のパーキンソン病患者に対する臨床研究をスタート
— 順天堂大学医学部脳神経内科との共同臨床研究 2009.05.20

капека